


<主な事業>

○北九州ひとみらいプレイスの充実
北九州ひとみらいプレイスは、コミュニティ（八幡西区）にある11の施設が連携した複合施設です。各施設の特長や専門性を生かし、子どもから高齢者まで、年齢、国籍、文化、障害の有無を問わず、若者成長の支援、あらゆる世代の学びの充実、さまざまな団体の活動支援、すべての市民の交流促進に取り組み、幅広い人づくりを支援しています。

[市民文化スポーツ局八幡西生涯学習総合センター]



ひとみらいプレイスの5つの目標

(4) 「学び」と「活動」の場づくり

①学んだ成果を活かす仕組み

学んだ成果を活動に活かすことは、誰かの役に立っているという喜びをもたらし、より積極的に活動に参画する熱意や、更なる課題解決のために新たな学びを求めるといった持続的な「学び」と「活動」の循環につながります。

そのため、「学び」と「活動」の一元的な情報提供を進めるとともに、学習した内容が直接、活動につながるボランティアの養成講座を実施します。また、すでに活動している社会教育関係団体やNPO、ボランティア団体などの運営に必要なスキルが習得できたり、団体の新たな活動へつながるよう、様々な学習機会を提供します。さらに、「学び」に参加した人が自主的にボランティア組織や学習グループを立ち上げるための支援をします。こうしたことで、「学び」と「活動」の循環を促進し、市民が学んだ成果を活動に活かす仕組みづくりを進めます。

<主な事業>

○高齢者いきがい活動支援事業

高齢者の社会参加や生きがいづくりの促進を目的として、高齢者が参加しやすいボランティア活動、生涯学習、仲間づくり活動に関する情報収集や活動のマッチングをいきがい活動ステーションで行います。(令和元年度利用者数：3,698人)

[保健福祉局長寿社会対策課]

○市民センタークラブ

市民の自主的な学習活動を支援するため、市民センターで実施される講座終了後、さらに継続的な学習を希望する人達で作られたクラブや自主的なサークル活動からスタートしたクラブなど4,733クラブ(令和2年4月1日時点)が各市民センターで活動しています。

[市民文化スポーツ局生涯学習課]



②生涯学習関連施設の整備

生涯学習関連施設は、市民の身近な学習・交流の場、文化・スポーツの振興の拠点として多くの市民に親しまれ利用されている重要な施設です。

また、急激な社会環境の変化が進む中で、生涯学習関連施設には、地域づくり・人づくりの拠点として地域の課題解決に向けた市民の学びと活動を支援していく役割が求められています。

そのため、生涯学習関連施設では、引き続き、市民が利用しやすい施設になるよう充実を図るとともに、住民参加による課題解決や地域づくりがより活発になるよう取り組みを進めます。

また、本市においては、様々な種類の施設が、旧市あるいは区ごとに配置され、その結果、市民一人当たりの施設保有量が政令市で最も多くなっています。(政令市平均の1.5倍)

その一方で、公共施設に関する本市の投資水準では、保有している全ての施設について、今後、現状の規模で大規模改修や建て替えを進めていくことは困難です。

そのため、「北九州市公共施設マネジメント実行計画」に基づき生涯学習関連施設についても、施設の利用状況や老朽化の状況を見ながら、施設の適正配置、複合化、多機能化など、より効率的な施設運営を目指し、将来的な財政負担を軽減するための取り組みを進めます。

施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり

■具体的な施策

- (1) 「学び」と「活動」を通じた人材の発掘・育成
- (2) 「学び」と「活動」をつなぐ人材の発掘・育成

■指標等

◎指標

指標	現状値	目標
	令和元年度	令和7年度
ボランティア登録人数 《北九州市調査》	22,858人	前年度以上
地域活動に参加した人の割合 《北九州市調査》	42.1%	50%
「学習成果を地域活動やボランティア活動など 社会に貢献したい」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》	85.9%	95%
「地域活動のリーダーやボランティアが 増加していると感じる」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》	30.6%	50%

◎モニタリング項目

○ボランティア大学校の研修の受講者数
○地域防災の新たな担い手を育成した人数
○新しく健康づくり推進員になった人数
○子育てサポーター登録者数及びサポーターリーダー配置割合
○新規設立 NPO 法人数
○ボランティア登録団体数
○地域づくりのリーダー育成につながるセミナー受講者数 (地域力アップセミナー、女性リーダー国内研修、生涯学習指導者育成セミナー)
○年長者研修大学校修了生の地域活動への参加状況
○生涯学習推進コーディネーター配置割合

○ボランティアコーディネーターが受けた相談件数

○新しく地域学校協働活動推進員（旧地域コーディネーター）になった人数

■取り組み

(1)「学び」と「活動」を通じた人材の発掘・育成

①地域ボランティアの発掘・育成

本市における「生涯学習意識調査」の結果では、「地域のために役立ちたい」と思っている人は約7割います。ボランティア活動は、地域や社会をよりよくしていくことに役立つとともに、活動する自分自身も豊かにしてくれる力を持っています。ボランティア活動を通して、さまざまな人たちと知り合ったり、協力しあうことで、人とのつながりを広げることがもできます。

また、人口減少時代の地域が直面する様々な困難な状況の中で、住民が主体的に課題を発見し共有し解決していくことが求められています。

そのため、地域の課題となる健康・子育て・環境・防災、人権等の様々な課題解決に取り組むための学習機会を提供し、地域づくりを担うボランティアを発掘・育成していきます。

また、本市では、様々な学びを通して活動している婦人会、PTA など、地域に根ざした社会教育関係団体をはじめ、NPO やボランティアなど、数多くの団体が地域で活躍しています。

そのため、これらの団体の活動を支援、協働することで、活動がより活発になるよう支援していきます。

<主な事業>

○ボランティア大学校運営事業

地域福祉活動やボランティア活動を担う人材を育成するため、北九州市社会福祉協議会のボランティア・市民活動センターと一体となり、市民に広く研修機会を提供しています。（令和元年度：研修・講習開催回数 45 回、受講者数 2,933 人）

[保健福祉局地域福祉推進課]

○子育てサポーターの配置

子育て中の親子を温かく迎え入れ、身近な相談相手になるとともに、親子同士をつなぎ、親子の成長を地域で見守る環境づくりのため、「子育てサポーター」を育成しています（1,561 人（令和 2 年 4 月 1 日時点））。市民センターのフリースペース等において、子どもの見守りや子育て支援に関する事業の企画・運営に携わっています。

[市民文化スポーツ局生涯学習課]



②地域リーダーの発掘・育成

高齢化の進展や共働き世帯の増加等により、自治会の役員のなり手が不足しています。一方、前述のとおり「地域の役に立ちたい」と思っている人はいます。

そのため、様々な「学び」の場や「活動」の場を提供し、「地域の役に立ちたい」という人材を発掘します。

また、住民主体のまちづくりを推進するためには、その中心となるリーダーが必要となります。リーダーには、地域をよりよくしたいという熱意と信念を持ち、地域住民の様々な意見を引き出し、つながりをつくり、地域に関わっていくことのできる人材が求められています。

そのため、「地域の役に立ちたい」という人達や、すでに様々な活動している人達にスキルアップを図るための学習機会を提供することで、地域活性化の中心となるリーダーを育成します。

<主な事業>

○地域力アップセミナー

昭和43年度に「婦人指導者セミナー」としてスタートし、当時の受講対象者は女性のみでしたが、平成16年度からは男性も受講対象者となりました。平成23年度からは現在の名称となり、受講者数は1,951名となっています。

地域への帰属感や連帯感を共有でき、学んだ成果を地域で活かすことができる人材の育成を目的としており、受講生が自らが学習し、主体的に関わることで地域づくりを実践的に学べる講座となっています。

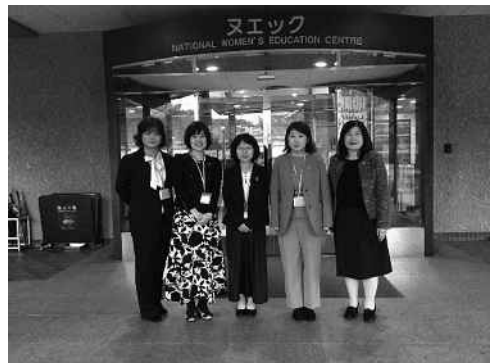
[市民文化スポーツ局生涯学習総合センター]



○女性リーダー国内研修

北九州市民カレッジ講座「地域力アップセミナー」、「社会教育・生涯学習基礎講座」などの修了者で、地域での活動や取組に貢献したいと考える市内在住の女性を対象に、国立女性教育会館などへの視察研修やその他研修を実施しています。生涯学習活動に必要な専門的知識や手法を学ぶことで、資質向上を図り、研修生が地域のリーダー的な役割を担い活かしていくことを目指しています。

[市民文化スポーツ局生涯学習総合センター]



(2) 「学び」と「活動」をつなぐ人材の発掘・育成

① 「学び」と「活動」をコーディネートする人材の発掘・育成

本市における「生涯学習意識調査」における地域関係者へのアンケートで、生涯学習を地域活動等に活かすために必要なことは、「学んだ人と地域の人をつなぐマッチング」と回答した割合が最も高くなっており、その仕組みが求められています。

その仕組みを上手く機能させるためには、学習成果を活かしたい市民とそれを求める市民や団体・機関をつなぐ役割を担う、専門人材が必要です。

そのため、様々な学びの場を提供し、多種多様な人材を集め、人とのつながりや学びを通して、より学ぼうという生涯学習への高い意識を持った人材を発掘します。更に、その人達に、コーディネーターとしての専門知識を養うための研修等を実施し、「学び」と「活動」をつなぐ人材を育成します。

<主な事業>

○地域・人づくりアドバイザー（社会教育主事）

各区役所コミュニティ支援課及び生涯学習総合センターへ社会教育主事を配置しています。（令和2年4月1日時点：8人）社会教育主事は、社会教育を行う人への専門的、技術的な指導や助言を行い、生涯学習活動を支援しています。また、各区役所に配置されている社会教育主事は地域づくり支援の役割を明確に位置づけるため、令和元年度から職名を「地域・人づくりアドバイザー（社会教育主事）」へ変更しました。

[市民文化スポーツ局生涯学習総合センター]

[各区役所コミュニティ支援課]

○生涯学習推進コーディネーターの配置

市民の生涯学習の推進ならびに市民センター等の活性化を図るため、市民センターと地域をつなぐ人材として、市民センターに「生涯学習推進コーディネーター」を配置しています。

市民センターで実施している生涯学習事業の企画・運営に携わっています。

[市民文化スポーツ局生涯学習課]

○地域学校協働活動推進員

地域等と学校とのパイプ役として、学校の要望に応じてスクールヘルパー等の人材発掘や「地域学校協働活動」の企画・立案、学校と地域住民、民間企業、団体・機関等との連絡・調整、地域住民への情報提供・助言・活動推進などに携わっています。

[教育委員会指導第一課]

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

■具体的な施策

- (1) 「学び」と「活動」による仲間づくり
- (2) つながりから生まれる地域への愛着・誇り
- (3) 学校と家庭・地域がつながる教育力の向上

■指標等

◎指標

指標			現状値	目標
			令和元年度	令和7年度
「学習活動を通じて、仲間や友人ができた」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》			45.4%	60.0%
「住んでいる地域や北九州市が好き」と回答した児童生徒の割合 《北九州市学力状況調査》	小5	実績	89.7%	前年度以上
	中2	実績	87.3%	
「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	実績	94.4%	全国平均以上
		国(実績)	95.2%	
	中3	実績	94.5%	
		国(実績)	94.3%	
「地域の行事に参加する」という児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	実績	71.9%	全国平均以上
		国(実績)	68.0%	
	中3	実績	59.2%	
		国(実績)	50.6%	
「子育てに関する悩みや不安を感じる」と回答した保護者の割合 《北九州市調査》	就学前児童		35.5%	現状値以下
	小学生		41.6%	
	中・高生		40.2%	
地域・子ども交流事業参加者数 《北九州市調査》			55,370人	現状維持

◎モニタリング項目

○文化財に関する一般向け・子ども向け講座の開催回数及び参加人数
○文化財に関する小学校等への出前講座開催回数及び参加人数
○各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数
○スポーツ観戦率
○朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合
○家庭教育学級長向けアンケート満足度
○コミュニティ・スクール（学校運営協議会）委員に参画している地域関係者の人数
○地域学校協働活動事業の実施校において、教育的効果があったと回答した学校の数
○青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数
○新科学館の入館者数
○地域・子ども交流事業開催回数

■取り組み

(1) 「学び」と「活動」による仲間づくり

① 「学び」と「活動」をきっかけにした仲間づくり

本市における「生涯学習意識調査」の結果では、学習活動をしたことで良かったこととして、「学習を通じて、仲間や友人ができた」（45%）との回答が多くあります。

人と人とのつながりの希薄化等が進むなか、地域での見守りや支え合いの関係を構築していくとともに、地域や社会の様々な活動に参加しようとする機運を高めていく必要があります。

また、様々な場において、人が共に学んだり、活動したりすることはふれあいや交流を生み、仲間意識を強くします。

そのため、より多くの人が集まり仲間づくりにつながるよう、ライフステージに応じた学習機会や共通の課題・テーマに沿った活動機会を提供します。

また、子どもから高齢者まで世代を超えた縦のつながりが生まれるよう、地域において様々な交流の場を提供して仲間づくりにつなげていきます。

<主な事業>

○生涯学習市民講座

市民一人一人が健康で心豊かな生活を送り、生きがいづくりや生活に必要な知識、技術を習得するだけでなく、地域課題や社会的課題の解決につなげるため、各市民センター等で幅広い分野にわたる講座を実施しています。(令和元年度：69,165人参加)

[市民文化スポーツ局生涯学習課]



(2) つながりから生まれる地域への愛着・誇り

①シビックプライドの醸成(地域文化、生涯スポーツ)

人間関係や地域コミュニティの希薄化が進むなか、地域で共に学び、課題を共有したり、相互に認め合い、地域を思い、自主的に活動する中で生まれる人と人とのつながりから、地域に対する愛着や誇り、帰属意識が育まれます。

そのため、自らも当事者として地域づくりに意欲的に取り組めるような「学び」と「活動」の機会を提供し、シビックプライドの醸成を図ります。

《①-1 文化振興によるシビックプライドの醸成》

市民が地域において、歴史や伝統、優れた文化に関わることは、地域との結びつきを強め、そこに住む人同士の絆を育みます。そうした活動は、市民自身が住んでいるまちや働いているまちに「愛着」を感じ、「誇り」に思い、そしてこのまちに関わっている一人であるという当事者意識を持つことにつながります。

そのため、「伝統文化の発掘・継承」「文化財の保存・継承」などを通じて、本市の歴史や伝統、文化を、次代を担う子どもたちに引き継いでいきます。

また、市民が文化芸術に気軽に触れ、楽しむ機会を増やすことで、郷土を愛する心を育てていきます。

<主な事業>

○文化・歴史の伝統継承

地域の文化や歴史を次世代に受け継いでいくことを目的として、市民や子どもを対象とした歴史・考古学講座を開講しています。また、小学校等を対象に、市内で発掘された出土品(埋蔵文化財)の実物に触れながら歴史を学ぶことができる出前講座を実施しています。 [市民文化スポーツ局文化企画課]



○博物館セカンドスクール事業

博物館を第2の学校として位置づけ、ミュージアムティーチャーによる体験学習の実施や学習プログラムの作成等に取り組み、理科・社会科への学習意欲の向上を図るとともに博学連携を推進します。特に、「博物館への誘致事業」、「学校教育支援事業」、「家庭教育支援事業」、の3つの柱をかかげ、学校教育現場と博物館の結びつきを強めていきます。

[市民文化スポーツ局自然史・歴史博物館]

《①-2 スポーツの振興によるシビックプライドの醸成》

スポーツや健康づくりは、心身の健康保持や健康寿命の延伸だけでなく、青少年の健全育成、家族や仲間とのふれあい、地域コミュニティの再生・活性化などの礎となります。

そのため、ライフステージに応じたスポーツの機会を提供し、市民の「豊かなスポーツライフ」を支援します。

また、大規模スポーツイベントの開催や本市をホームタウンとするプロスポーツチーム等の市民観戦事業、体験教室の開催など市民がスポーツに親しむきっかけ作りを進め、スポーツを通じた元気なまちづくりにつなげていきます。

<主な事業>

○総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業

子どもから高齢者までスポーツを楽しむことができる総合型地域スポーツクラブが、市内に9クラブあり、各クラブで、スポーツ教室やイベントの企画・運営などを行っています。本市では、総合型地域スポーツクラブの育成・支援を行うことで、本市のスポーツレクリエーションの更なる普及・振興を図ります。

[市民文化スポーツ局スポーツ振興課]



○北九州マラソン開催事業

スポーツの振興を図るため、1万人規模のマラソンを開催します。また、全国から参加するランナー等への食のおもてなしやコース沿いに位置する観光資源を通して、本市の魅力をPRするとともに、シビックプライドの醸成を図ります。

[市民文化スポーツ局スポーツ振興課]



(3) 学校と家庭・地域がつながる教育力の向上

①家庭教育支援の充実

家庭は教育の出発点です。しかしながら、共働き世帯の増加、地域とのつながりの希薄化など、子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化する中で、家庭教育の支援をより充実していくことが求められています。

そのため、家庭教育関連事業を実施する関係部局間で連携し、家庭教育に関する啓発を図るとともに、学習機会を提供していきます。

また、仕事や子育てなどで忙しく、学習の機会に参加できない保護者に対し、ホームページやSNSなどのインターネットを活用して家庭教育に役立つ情報を効果的に発信し、家庭教育の支援を充実していきます。

<主な事業>

○家庭教育学級

市民センターとPTA、学校等が連携し、同じ年代の子どもを持つ保護者が、お互いの経験や情報を交換するとともに、楽しく交流しながら学び合う場として「家庭教育学級」を実施しています。(令和元年度：19,285人参加)

[市民文化スポーツ局生涯学習課]



②家庭・地域・学校の連携促進

虐待の事案などにも見られるように、支援の必要な家庭では、経済的・社会的・精神的困難などが複雑に絡み合っていることが多いと言われています。

こうした社会的な課題に対応していくためには、従来の学校と教育委員会における取り組みのみならず、家庭への働きかけや連携、地域の大学・企業・団体や専門的な人材等との協働、保健・福祉分野との連携が不可欠であり、関係部局・機関等の垣根を越えて、市民総ぐるみで子どもたちを支援する取り組みを進める必要があります。

特に最近では、地域が学校を支援する仕組みや体制の構築が図られており、今後はさらに、地域との連携・協働を進める取り組みを検討する必要があります。

そのため、引き続き、様々なボランティアと連携し、各学校の実情に応じて、地域全体で学校教育を支援する取り組みを進めます。

<主な事業>

○コミュニティ・スクール、地域学校協働事業

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた基盤として、地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていくために、「コミュニティ・スクール（北九州市型コミュニティ・スクールを含む）」と「地域学校協働活動」の一体的な推進を図ります。

[教育委員会指導第一課]

③地域における子どもたちの発達・育成を促す環境づくりと体験活動の促進

少子化や地域コミュニティ意識の希薄化などにより、子ども会活動をはじめ地域における子どもの活動は全体的に低迷している状況にあります。

地域づくりの未来の担い手である子どもたちの育ちを地域で支えることが、地域の活性化につながっていきます。

また、子どもたちの豊かな人間性を育み、自ら学び、自ら考える力など「生きる力」の基盤をつくり、子どもの成長の糧につなげていくことが求められています。

そのため、地域住民、子育て支援団体、NPO、企業など、地域の多様な主体が参画し、地域全体で子どもたちの発達・育成を促す環境づくりに取り組みます。

特に、世代間交流や体験活動は、豊かな人間性や自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」の基盤、子どもの成長の糧としての役割が期待されています。

そのため、地域、子ども会などの青少年育成団体と連携し、世代間交流・異学年交流や生活体験、自然体験、社会体験など、体験活動の充実に取り組みます。

<主な事業>

○生涯学習市民講座（地域・子ども交流講座）

地域の特色を活かし、家庭・地域・学校等が連携して、世代間交流や様々な体験活動の機会等を提供し、地域全体で子どもを見守り育てる意識を高め、子どもの健全育成に取り組んでいます。（令和元年度：55,370人参加）

[市民文化スポーツ局生涯学習課]



○青少年ボランティアステーション

青少年の成長に欠かすことのできないさまざまな体験活動を通じ、社会性や協調性を身に付けることを目的に、青少年が参加しやすいボランティア活動の場や機会を創出します。

[子ども家庭局青少年課]

